逢びき（1945）

BRIEF ENCOUNTER

メディア 映画
ジャンル ロマンス　ドラマ
製作国 イギリス
色彩 B&W
時間 86分
初公開日 1948/05/25
公開情報 ＢＣＦＣ＝ＮＣＣ

【解説】

語り尽くされた感のあるメロドラマの名作だが、そのモノローグの切実さ気高さに今観ても我が意を得たり、というロマンチストは多いのではないか。製作・脚本のカワードの原作戯曲では順次的に語られる物語が、甘美さを控えた理知的な回想形式で描かれ、その抑制が、主題である中年の淡い不倫の恋にぴったりより添い、地味な人妻のヒロインを燦然と輝かせている。ローラは会社員の妻で、息子が一人。毎週木曜、近郊の小都市への買い出しついでの昼食や映画鑑賞を楽しみにしている平凡な女だ。ある夕方、帰りの汽車を待つホームで目に入った砂を医師アレックが取り除いてくれた。何となく感じの良い人物と思って別れたが、その後も待ち合いのバーで顔を会わすうち、次第に彼に魅かれていく。夫は愚直だが善良な男で、罪悪感に駆られ顔色を悪くする妻を優しく慰める。それが余計、彼女には辛かった。アレックにも妻子があったが、彼女への気持ちは本物だ。一時は全てを洗いざらいぶちまけて、夫に許しを乞うことも考えたローラだが、アレックの友人のアパートでの密会を友人に誤解されたのを契機に、二人して敢然とその思いを断ち切り、アレックは海外への赴任を打ち明け、想い出のためにも強く生きてーーと彼女を諭して去っていった。映画館でデートを重ねたり、冬の公園で遊ぶなどディテールが実に豊かで、５０年代以降大作ロマン専門になった感のリーンの繊細な本領を「旅情」同様、十二分に窺わせ、ことに列車の窓に、二人の幸福な絵姿を夢想する場面は、それまでの抑えた描写が効を奏し、実に甘くはかなく忘れ難い。

【クレジット】

監督	デヴィッド・リーン	David Lean	
製作	ノエル・カワード	Noel Coward	
	アンソニー・ハヴロック＝アラン	Anthony Havelock-Allan	
	ロナルド・ニーム	Ronald Neame	
原作	ノエル・カワード	Noel Coward	
脚本	ノエル・カワード	Noel Coward	
	アンソニー・ハヴロック＝アラン	Anthony Havelock-Allan	
	デヴィッド・リーン	David Lean	
	ロナルド・ニーム	Ronald Neame	
撮影	ロバート・クラスカー	Robert Krasker	
音楽指揮	ミュア・マシースン	Muir Mathieson	
出演	セリア・ジョンソン	Celia Johnson	ローラ
	トレヴァー・ハワード	Trevor Howard	アレック
	スタンリー・ホロウェイ	Stanley Holloway	
	ジョイス・ケアリー	Joyce Carey	
	アルフィー・バス	Alfie Bass	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.